

令和8年3月13日

兵庫ひきこもり支援団体等ネットワーク講演会

# 居場所としての農園 ～ 農作業体験型居場所 ～

---



#8900  
ハヤク オーエン

神戸ひきこもり支援室  
(神戸市福祉局相談支援課)





# 神戸ひきこもり支援室 相談実績 (令和6年度) BE KOBE

○初回相談実数 364人

○相談件数 (延べ) 2,442件

## ○初回相談者

種別	人数	割合
本人	98	26.9%
親	226	62.1%
きょうだい	18	4.9%
その他親族	7	1.9%
支援機関	15	4.1%
その他	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	364	100.0%

※家族からの相談が約7割

## ○対象者年代

年代	人数	割合
10代	70	19.2%
20代	122	33.5%
30代	69	19.0%
40代	63	17.3%
50代以上	40	11.0%
不明	0	0.0%
合計	364	100.0%

## ○ひきこもり期間

期間	人数	割合
～6か月	33	9.1%
6か月～1年	26	7.1%
1年～3年未満	81	22.3%
3年～5年未満	35	9.6%
5年～10年未満	50	13.7%
10年以上	104	28.6%
不明	35	9.6%
合計	364	100.0%



# 神戸ひきこもり支援室における事業展開の経過

R2	区定期相談会	各区役所にて月2回出張相談
	専門職チーム派遣	精神科医、精神保健福祉士等が精神障害が疑われる未受診者に訪問等を行う
	学校担当相談員による支援	学校卒業後、退学後に切れ目のない支援ができるよう在学時から支援
	家族教室 家族の居場所	本人への接し方等を学ぶ家族教室と家族同士の交流の場である居場所を開催
	就労支援	就労の適性を推定し、就労体験や就職活動を支援 (現在は若者サポートステーションとの連携により実施)
R3	分身ロボットによる居場所参加支援	分身ロボット「OriHime」を遠隔操作し自宅等から居場所への参加を支援 (現在はバーチャル空間「ovice」の利用に集約)
	8050世帯支援	親なき後に備え、家族やケアマネジャー向けに研修を開催
R4	当事者居場所	当事者会を月2回開催。うち1回はバーチャル空間上でのオンライン開催
	市民向け講演会	市民向け講演会(当事者による体験談)をオンラインで開催
	定着支援・見守り	就労-復学した人や8050世帯等へ積極的支援終了1年以内に電話、必要時再相談
R5	青少年期向け家族教室	早期支援のため、主に10代・20代を対象とした家族教室を開催
R6	農作業体験型居場所	体力の回復や生活リズムを改善し、生活意欲の向上を目的に週2回実施
	ピアサポーター養成派遣	当事者会参加者を対象にピアサポーターを養成。派遣を実施
	参考) つながるひろば	単発の県市協調イベント。メタバースで自由参加し情報収集・居場所交流を実施



## 農作業体験型居場所

### 目的

社会参加の基本となる体力の回復や、昼型の生活リズム定着、世話をした植物の成長から自己の役割を見出し、自己肯定感や生活意欲の向上を目指す

### 実施内容

- 対象者：ひきこもり（家族も含む）、こども・若者ケアラー、再犯防止の支援対象者 など

（社会福祉協議会等地域の関係機関が支援しているひきこもりの人も含む）

- 回数：週2回（月・木曜、9:30～11:30頃 雨天時・祝日・年末年始休み）
- 参加者：ひきこもりサポーター（園芸療法士の資格保有者、神戸市シルバーカレッジ卒業生 等）

※ サポーターの役割は「一緒に同じ作業をすること」とお伝えしている。



**しあわせの村（神戸市北区）内農園**  
指定管理：  
しあわせの村運営協働事業体  
(代表者はこうべ市民福祉振興協会)

1989年開村。総合福祉ゾーン。  
福祉・医療施設をはじめ、温泉健康  
センター（プール・体育館・ジム）  
等がある。

引用：神戸市しあわせの村おさんぽマップより





## 実績

- R 6 71回 延べ214人参加（当事者実人数9人）  
ひきこもりサポーター 延べ345人参加（実人数11人）
- R 7（4～12月） 66回開催 延べ146人参加（参加者実人数8人）  
ひきこもりサポーター 延べ308人参加（実人数11人）

## 成果

- ・屋外で人との接触が少なく、手入れした植物の成長から自分の役割を見出せる。
- ・外出の継続や、体を動かすことで、体力がつき昼型の生活リズムが定着する。
- ・植物が生育するための工夫を自分で調べて他の参加者に伝えるなど、主体的になる。
- ・自分に自信がつくと、就労等これからのことを前向きに考えることができる。
- ・収穫物を自宅に持ち帰ると、家族との会話や食事の喜びが増える。
- ・当日の作業目標を、参加者・サポーター・市職員の関係なく、慣れた人が周りの人に教えながら協力しあって達成すると、つながりを感じられる。



## 参加されている当事者Aさんからのメッセージ

- (利用者やひきこもりサポーターは) 年齢も幅広く、色々な人がいて、そういう場で過ごす事で、人それぞれ色々な考えがあったり、経験があったりする事がわかり、今の自分を許容できるきっかけになりました。
- また、その人達と無理に話す必要もないけど、一緒に何かに取り組んでいるという環境が、プレッシャーもなく安定して参加できることにつながりました。
- 自分が携わった作物が出来るという満足感や、工夫が結果に見える事が、前向きに動けた要因だと思います。



## 園芸療法士の資格を持つ ひきこもりサポーター Bさんからのメッセージ

- (当事者の方が) 継続して、農園に来られるようになると土を耕し、種をまき、水をやり、野菜を育てる実践をしていくうちに、植物の生命力を体感することができ、参加者の皆さんは、心身共に元気になられ、意欲も高まっていました。そして、自分たちが育てた野菜が実り収穫して食べられることは達成感があり、自信にもつながっていました。
- 月日を重ねるなかで、次のステップに進もうと、ひとりひとりが成長されたことは、サポーターとして感慨深いものがあります。



- ひきこもり本人の社会参加の例としては、就労のほか、起業、地域の居場所への参加など様々な形がある。
- 社会参加のきっかけとして、本人が興味や関心を持てるものがあれば参加しやすく続けられる可能性がある。
- 支援室では、体力回復や生活リズムの改善、生活意欲の向上を目的に居場所として農園を活用した「農作業体験型居場所」を実施している。
- 就農は目指しておらず、植物や自然との関わりを通して、じっくりと社会生活における健康の回復を目指す（園芸療法をベースにした関わり）ことが、自分のペースで生き方や社会との関わり方等を決めていくことができるようになること（自律）を目指す、ひきこもり支援にも効果が期待できると感じている。

